

# 須磨区会だより

第59号

2025年1月21日  
グループわ 須磨区会長  
梅田孝一

## ▶ 令和七年新年の挨拶

新年明けましておめでとうございます。

皆さま、穏やかに新年を迎えられたことと思います。  
旧年中は須磨区会の諸活動にご理解とご支援をいただき  
感謝申し上げます。今年もよろしくお願いたします。

今年、昭和100年にあたり、私どもは昭和のほぼ第1四半世紀生まれの世代です。

今の若い世代から見た私達は、ちょうど青年期の私達が明治生まれの方々に接して感じたのと同様だ  
ろうと思います。最近のネット社会に取り残されまいと、あたふたしている高齢者ですね。

今年、また、団塊世代が後期高齢者となる所謂2025年問題の時代に入ります。高齢者を取り巻く社会  
環境が変化して私達の生活感やスタイルが明らかに多様化している状況から、グループわ各区会会員の  
皆さまの活動の在り様も変わってきた印象です。グループわにおける区会の役割について、会員の皆さま  
のご関心に耳を傾け、見直す時機にあるのかも知れません。

最近、淡路島七福神である宝生寺（長寿の神・寿老人の霊場）の「ぼけない為の五ヶ条」を知りました。

- 一）仲間がいて気持ちの若い人、二）人の世話をし、感謝のできる人、三）物をよく読みよく書く人、  
四）よく笑い、感動を忘れない人、五）趣味の楽しみを持ち旅の好きな人…、とあります。

区会での地域に密着したボランティア活動や身近な地域でのつながり活動への参加も皆さまの「日々是  
好日」に向かう選択肢でしょう。歳と共に行動範囲が狭くなる私どもに、区会がそうした活躍の場を提  
供する機会として今後の重要な役割を果たすと思われまます。区会がシルバーレτζ同窓の意気を共有  
し、親近感もてる場となる様、皆さまのご提案やご参画をいただけると幸いです。

この一年、好日を重ねて良い年と致しましょう。

令和7年1月元旦      グループわ須磨区会長 梅田孝一

## 地域貢献活動

### 須磨海岸清掃活動

2024年の活動は、13回実施し11月30日に終了しました。

参加者は1回平均18名であり、須磨区会に加えて地域交流会、西区会、須磨オヤジ倶楽部の方も参加  
されました。本年も4月から始まります。ぜひ参加してください。

活動案内は わ ホームページに毎月掲載されています。予約なしの自由参加です。

### 地域貢献活動

1. 花谷小学校：授業参観と受付・見回り： 2月14日（金）13:20-15:00
2. キツツキの森 花壇整備支援：月1-2回フォロー  
横尾ふれあいカフェ：毎週月曜日対応

### 福祉ボランティア活動

- 1 須磨区ボランティアセンターからの要請案件は以下の通りです。  
・ヨハネ寮での卓球支援 月1回ペース ・あいハート離宮前 書道支援
- 2 名谷すみれ苑からの初詣で 付き添い  
・今回は1月15~20日であったため、来年はぜひ応募してください。

### 会員つながり活動

1 月度の案内をわのホームページに掲載しています。

グラウンドゴルフ教室、 折り紙教室、 麻雀教室、 健康体操、 ペタンク名谷倶楽部

『須磨区会だより』をご通読いただき有難うございます。お気づきの点は、杉山 or 井出まで連絡下さい。

▶杉山：メール windts-1217@citrus.ocn.ne.jp ▶井出：メール a1b2c3d4efghi@yahoo.co.jp

## (新企画・第7回)個人・グループで取り組んでいる地域貢献活動

### グループ峠の30年

細野 恵久(福3)

1995.1.17の阪神淡路大震災は凶らずもカレッジ在校生に「再び学んで他のために」実践の機会を与えた。私の住む須磨区白川台では親睦グループのリーダー岡本いさよ(国1)が提唱して近隣の避難者に交通・郵便・医療・店舗などの地図を手作りして配ったりした。

1998年白川峠の一角にシルバー向け災害復興住宅が完成すると、在校生も加えてグループ峠と名付け、持ち込みの茶話会を定期的を開いて入居者をもてなした。

2000年町内に特別介護老人ホーム《神港園サニーライフ白川》が開設され、神生昭夫(福2)が発案、梅谷正芳(国2)らの海岸清掃活動メンバーも賛同して、ボランティア活動を申し入れた。戸惑った施設が示したのは入所者で要介護度の高い女性の浴後介助(主に整髪)という仕事だった。不安はあったが引き受けて、4期生までの18人で週2回2人ずつの当番で取り組むことに決めた。私は施設との調整と当番表作成を引き受け活動の先頭に立つことにした。

「他のために」を志願して参加したものは最終的に40名に達した。

2005年この年を境に参加者数が減少に転じた。2012年ぎやらりーわの取材を受けた時、参加者はすでに半減していた。それまで《区会だより》などで参加を呼びかけていたが効果はなかった。

高齢のお相手とは会話が難しく活動の満足感が乏しいに違いなかった。

2016年、神戸市社会福祉大会でぐるーぶ峠は市社会福祉協合理事長の感謝状をいただいた。当時の施設長樋口氏の推薦によるものだ。しかしその時の活動メンバーは6人に減少していた。



2016年前後から近くにお住いの婦人も加わってくれ、須磨区会だけの活動とは言えなくなり、当番表からぐるーぶ峠を消した。

参加者の減少傾向はかわらず、あとの者の負担は重くなる一方だったが当番を守った。初期からのメンバーの上田多美子(福2)は痴呆症状が垣間見えて当番日を誤ったりしながらも引退する様子は見せなかった。

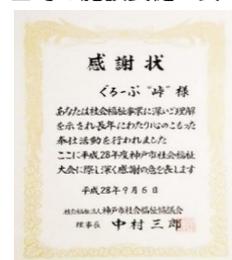
2020年、コロナの感染を懸念した施設はボランティアの受入れを取り止めた。このときの参加者はすでに上田と高田千鶴(園17)と私の3人だけになっており、ぐるーぶ峠は名に次いで実体も消えた。

2023年施設から活動再開のお誘いを受けたが、参加者確保の見通しが立たないため辞退した。私自身も加齢とともに気力も体力も減退し、他人の世話までは考えられなくなっていた。さて、改めてぐるーぶ峠がたどった跡を振り返り、これを挫折といえるのか考えてみたい。

《わ》の中で、地域を限定した区会活動は参加者の確保に苦しんでおり、ぐるーぶ峠もそれが原因で消えた。一方同じ「他のために」を掲げる部会活動は質的にも量的にも伸び続けている。実は区会活動はその煽りを受けているのだと思う。何故なら、部会に所属する者は必ずいずれかの区会に所属しているが、活動の場を区会に置くとに限らず、どちらかといえば部会活動に専念する者が多いからだ。その理由を考えるうえで確かに言えるのは、区会活動がニーズ対応という受け身から出発しているのに対し、部活動は自らのシーズ活用という自発的な動機に基づいていることである。

震災から30年を経て社会が平常を取り戻した今、シーズ優先は必然の方向であり、決して否定できない。とはいえ私は区会活動も部会活動もこのままにしてよいとは思わない。地元の、身近な、だれにでもできる活動だからこそ、会員は《わ》在籍中にせめて一度は所属の区会で活動を経験してもらいたいと思う。区会ではいま、会員間のつながりを取り戻すことに努めている。活動母体を健全に保ち、何時でも活性化できるようにしておくためだ。部会のメンバーも近くの区会メンバーに「他のために」を及ぼして、つながりを作ってもらいたい。区会側もそのためのお膳立てを忘れてはならない。

(文中敬称承略)



## ▶つながい活動 ウォークラリー 10回記念大会

本ウォークラリー大会は、2013年以来続いており、コロナ禍による2回の休止を除くと、今年は10回の記念大会となった。大会開催日は、季節、天候を考慮して、毎年10月の第4日曜日に固定してきました。企画運営は、細野恵久氏、倉本敏明氏の指導のもと、新入会員4名と経年会員3名により運営されました。会場の使用については、関係官庁と多井畑厄除八幡宮への届け出、調整をしました。ゲームについては、コースの選定、クイズの内容作成、クイズとチェックポイントの設置場所の選定等、細心の注意と知識・知恵が必要です。また、大会当日は、スタッフが受け付け、資料配布、結果の採点などを行いました。今回は、わ からの特別チームを含めて8チーム22名が参加しました。平均所要時間に近いこと、および、クイズの正答数によって得点を競います。平均所要時間は100分でした。成績順位に差が出た要因はクイズの正答率に依存しました。クイズの内容が非常に巧みにできていますので、下表に紹介しやすく一部短縮しています。解いてみてください。正解は4月号に掲載します。

	設問	選択する回答
CP2	〈再び学んで他のために〉を掲げて創設されたシルバーカレッジの理念を引継いだわ。事実と異なるのは？	A 発足当初シルバーカレッジの新学期は10月だった B 相次いで発足した8区会トップは須磨区会だった C わは東北大震災の被災地に支援チームを4回送った D わが年会費制を採用した際に会員数が一時減少した
CP4	須磨区会は隣り合う複数の小学校区を一体とした【 】のブロックを設けています。その数は？	【数字】を記入してください。
CP5	この公園にある7つの池の水はどこから？	A 水道から引いて B 雨水などが溜まって C 湧き水で
CP6	この沼にハンゲショウという植物が自生し6月には葉の一部が白く変ります。その訳を選んでください。	A 強い太陽光をはね返す B 虫を呼びよせる C 葉の水分蒸散をおさえる
CP7	この辺りは多井畑と呼ばれていません。その語源は次のどれでしょう。	A 井戸が多い B くぼ地に畑を作った C 段々畑が多い
CP8	この辺りの甘い匂いはカツラの樹によるものです。何が匂っているのでしょうか。	A 樹皮 B 落葉 C 黄葉



写真1.  
そちらで  
大丈夫？



写真2.  
優勝  
おめでとう



写真3. 参加者全員 みんな笑顔

## ▶ 須磨まち歩きのお会

今回は「古 山陽道を多井畑から下畑へと史跡を巡る」と題して、住本幸博氏（元・NPO須磨歴史倶楽部メンバー）のガイドで下記の6箇所を巡りました。

1. 猿田彦神社： 多井畑厄除八幡神社のすぐ北側にある、村の道祖神です。きれいに整備された境内に根回り4.5m、枝の広がり約20mのウバメガシの大木が目を引きまます。境内は深い谷に突出しており斜面には一つ葉が茂っていました。
2. 松風・村雨の墓： 在原行平が愛した 多井畑村長の娘 松風と村雨の墓がある。  
\* 近くには、源平合戦の平家の落ち武者13名の墓もある。
3. 鏡の井： 古くから湧水があった場所と思われる。透明な水が溜まっており、鏡のようになっている。村の水源として大切に保存されてきた。



1. 正面・猿田彦神社



2. 奥。松風・村雨の墓



3. 鏡の井

4. 義経腰掛の松： 1184年源義経一行が多井畑厄除八幡宮で先勝祈願をした後、この松の下で休憩してから、一の谷の合戦に向かったといわれている。
5. 下畑海神社： 下畑は播磨と摂津の国境にある。御祭神は1751年垂水村鎮座の日向神社（海神社）の御分霊を下畑神社の鎮守の神としてお祀りした。神殿前は「神相撲」が行えるように広がっている。
6. 久昌寺（臨済宗妙法寺派禅寺）： 住職の福山昇山 様よりご説明を受けた。ここには重要文化財の宝篋印塔（ホウキョウイントウ）がある。ここには宝篋羅陀羅尼が収められている。



4 左奥。義経腰掛の松



5. 海神社の史跡地図



6. 久昌寺本殿前

<感想> 曇り空の下、参加者7名が六か所を巡った。後半2か所のお寺はいずれも山の中腹にあり、長い階段を上った。個人では訪問することが困難な場所を巡ることができ、また、山間の古い村の面影を覗くこともできた。頭と体の刺激になりました。解散時に雨がぽつりと来た。



境川に群れるシラサギ  
(2024.12.30)